

後藤昭先生（名誉教授） 著作目録

I 単著

- 1987年 『刑事控訴立法史の研究』（成文堂）
1997年 『わたしたちと裁判』（岩波ジュニア新書288）
2001年 『捜査法の論理』（岩波書店）
2006年 『新版 わたしたちと裁判』（岩波ジュニア新書547）

II 共著・執筆分担

- 1984年 『大百科事典』（平凡社）
1986年 『刑事訴訟法100講』（学陽書房）
1990年 『朝日人物辞典』（朝日新聞社）
1991年 『刑事訴訟法』（有斐閣Sシリーズ、第2版1996年、第3版2002年、
第4版2006年、第5版2013年）
1993年 『基本法コンメンタール刑事訴訟法〔第3版〕』（日本評論社）
1995年 『代用監獄の廃止と刑事司法改革への提言』（明石書店）
『新・判例コンメンタール刑事訴訟法5』（青林書院）
1996年 『入門・監獄改革』（日本評論社）
『法と裁判』（放送大学教育振興会）
『基礎演習刑事訴訟法』（有斐閣）
1998年 『刑事弁護コンメンタール刑事訴訟法』（現代人文社）
『アメリカの刑事弁護制度』（現代人文社）
2003年 『刑事法辞典』（信山社）
『21世紀の刑事施設』（日本評論社）
2004年 『実務家のための裁判員法入門』（現代人文社）
『法科大学院ケースブック刑事訴訟法』（日本評論社、第2版2007年）

- 2005年 『目撃供述・識別手続に関するガイドライン』（現代人文社）
2008年 監修『裁判員時代の法廷用語』（三省堂）

Ⅲ 編著・共編著

- 1993年 『現代令状実務 25 講』 村井敏邦と共編（日本評論社）
1994年 『法律学小辞典（新版）』（有斐閣、第3版1994年、第4版2004年、第4版補訂版2008年、第5版2016年）
2003年 『刑事法演習』 平川宗信と共編（有斐閣、第2版2008年）
2005年 『岩波判例基本六法 平成18年版』
2006年 『岩波判例基本六法 平成19年版』
2007年 『岩波判例基本六法 平成20年版』
2008年 『岩波判例基本六法 平成21年版』
2009年 『岩波判例基本六法 平成22年版』
2010年 『新・コンメンタール刑事訴訟法』 白取祐司と共編（日本評論社、第2版2013年）
『岩波判例セレクト六法 平成23年版』
2011年 『東アジアにおける市民の刑事司法参加』（国際書院）
村井敏邦先生古稀記念論文集『人権の刑事法学』（日本評論社）
『岩波判例セレクト六法 平成24年版』
2012年 『岩波判例セレクト六法 平成25年版』
2013年 福井厚先生古稀祝賀論文集『改革期の刑事法理論』（法律文化社）
『実務体系現代の刑事弁護1 弁護人の役割』 高野隆・岡慎一と共編（第一法規）
『実務体系現代の刑事弁護2 刑事弁護の現代的課題』 高野隆・岡慎一と共編（第一法規）
2014年 『プロブレムメソッド刑事訴訟法30講』 白取祐司と共編（日本評論社）
『実務体系現代の刑事弁護3 刑事弁護の歴史と展望』 高野隆・岡慎一と共編（第一法規）

IV 論文・講演録・判例研究・解説など

- 1978年 「刑訴特例法案に思う」緑会雑誌復刊10号35-41頁
- 1979年 「抗告審の構造」(松尾浩也と共同執筆)ジュリスト増刊『刑事訴訟法の争点』(有斐閣)272-275頁
「いわゆる記名代印方式による書面と申立の効力」(判例評釈)警察研究50巻3号70-75頁
- 1980年 「勾留期間延長の裁判が勾留期間経過後に取り消された場合の身柄釈放時期——違法に身柄を拘束されていたことが勾留の裁判の効力に影響を及ぼさないとされた事例」(判例評釈)警察研究51巻1号76-83頁
「Moore v. City of East Cleveland, 341 U.S. 494 (1977)」(判例研究)アメリカ法〔1980-II〕159-164頁
「『読み聞け』に思う」『東京弁護士会期成会 歩み続けて20年』195頁
「裁判所及び裁判官が被害者である場合と管轄の移転」(判例評釈)警察研究51巻12号60-64頁
- 1981年 「控訴審の手続と刑訴法314条の準用の有無」(判例評釈)警察研究52巻2号78-82頁
「上告審で破棄された高裁判決の先例性」(判例評釈)警察研究52巻4号77-82頁
「原判決後被告人の妻が選任した弁護人の上訴権」(判例評釈)警察研究52巻5号74-81頁
- 1982年 「有罪判決の理由」(判例解説)別冊ジュリスト『刑事訴訟法判例百選4版』196-197頁
- 1983年 「千葉大チフス事件」(判例解説)ジュリスト792号昭和57年度重要判例解説186-188頁
- 1984年 「ワークショップ 訴訟指揮」(小田中聰樹と共同執筆)刑法雑誌26巻1号143-148頁
「西ドイツ刑事訴訟法改正のための参事官草案(六) 上訴に関する改正提案」警察研究55巻12号70-75頁

- 1985年 「立法史からみた控訴審構造論の意義」 刑法雑誌 26 卷 3 = 4 号 452-470 頁
- 1986年 「本位的・予備的訴因のある場合の攻防対象論の適用と破棄判決の拘束力」 (判例解説) ジュリスト 862 号昭和 60 年度重要判例解説 189-191 頁
- 「搜索差押の際の写真撮影」 法律時報 58 卷 7 号 97-102 頁
- 「訴因と審判の範囲」 (判例解説) 別冊ジュリスト『刑事訴訟法判例百選 5 版』 108-109 頁
- 「令状の筆写・立会」 法律時報 58 卷 12 号 102-107 頁
- 1987年 「氏名を黙秘する被疑者の弁護人選任」 法律時報 59 卷 6 号 120-124 頁
- 書評 鈴木茂嗣「覚せい剤使用罪と訴因の特定」 法律時報 59 卷 8 号 120-123 頁
- 書評 白取祐司『一事不理の研究』 法律時報 59 卷 9 号 113-115 頁
- 1988年 「接見指定をめぐる新しい動きについて」 接見交通権ニュース No. 10、12-13 頁
- 「レーダー式速度測定装置による測定値の信頼性」 (判例解説) 法学教室 88 号 91 頁
- 「自由心証主義・直接主義と刑事控訴——平田元氏の論文を契機として——」 千葉大学法学論集 2 卷 2 号 21-47 頁
- 「控訴審における新証拠の取調べと刑訴法 393 条 1 項本文」 (判例評釈) 警察研究 59 卷 3 号 32-42 頁
- 「弁護人との接見交通をめぐる問題点」 法律時報 60 卷 3 号〈特集 刑事・留置施設法案の研究〉 43-48 頁
- 「刑訴法 382 条の 2 にいう『やむを得ない事由』」 (判例解説) ジュリスト 910 号昭和 62 年度重要判例解説 193-194 頁
- 「未決拘禁をめぐる訴訟法と施設法の関係——弁護人との接見交通を中心として——」 自由と正義 39 卷 6 号 65-70 頁
- 座談会「法曹養成・法律家をめぐる現状と課題」 法律時報 60 卷 7 号 6-24 頁

「原判決後被告人の母が選任した弁護人の上訴権」(判例解説) 法学教室 94号 48-79頁

書評 浜田寿美男『狭山事件虚偽自白』千葉大学附属図書館報「図書館の本」40号 3頁

「留置施設法案と被拘禁者の人権——逮捕留置『法律化』論への視点」
法学セミナー増刊『監獄の現在』168-174頁

書評 守屋克彦「取調べに関する事実認定と自白の任意性——無罪事例などの検討を通じて」法律時報60巻12号 134-137頁

「警察取調べと自白・勉ちゃん殺害事件」法学セミナー 408号 30-31頁

1989年 「事実認定の『方法』と『人』と『制度』」——共同研究に参加して」
刑法雑誌 29巻3号 477-480頁

「戦後改革の完成へ」ジュリスト 930号〈特集 刑事訴訟法40年の軌跡と展望〉153-154頁

「接見交通・被疑者取調べをめぐる訴訟法と『施設法』の関係」千葉大学法学論集 3巻2号 1-39頁

「不出頭を理由とする逮捕」法律時報61巻3号 97-100頁

「自白法則と補強法則」法律時報61巻10号〈特集 刑事手続の改革 事実認定と誤判救済〉35-38頁

「国際人権法と代用監獄——NGO報告書『警察署での拘禁——1989年2月パーカー・ジョデル報告書』を読む」(分担執筆) 國學院法学 27巻2号 83-121頁

1990年 「判例の拘束力論と裁判官像」法と民主主義 244号 22-30頁

座談会「判例回顧と展望」法律時報62巻5号 3-36頁

「演習 刑事訴訟法」法学教室 116号 118頁

「事件で見る裁判100年[㊤] 白鳥決定——誤判救済」法学教室 121号 76-77頁

「控訴審における破棄と事実の取調べ」石松竹雄判事退官記念論文集『刑事裁判の復興』(勁草書房) 389-407頁

「人権と司法の見張り役を期待する」法と民主主義 257=258号〈私の

- 問題意識と日民協への期待) 47 頁
- 「演習 刑事訴訟法」法学教室 122 号 117 頁
- 「捜索差押令状に記載されていない物の写真撮影と準抗告」(判例解説)
法学教室 123 号 92-93 頁
- 書評 村井敏邦編著『現代刑事訴訟法』法学セミナー 428 号 125 頁
- 1991 年 「演習 刑事訴訟法」法学教室 124 号 106-107 頁
- 座談会「判例回顧と展望」法律時報 63 卷 3 号 3-29 頁
- 「ワークショップ 控訴審」(加藤克佳と共同執筆) 刑法雑誌 31 卷 3 号
402-407 頁
- 「演習 刑事訴訟法」法学教室 128 号 110 頁
- 「取調べ受忍義務否定論の展開」『平野龍一先生古稀祝賀論文集下巻』
(有斐閣) 289-309 頁
- 「演習 刑事訴訟法」法学教室 132 号 99 頁
- 「別件逮捕・別件勾留」ジュリスト増刊『刑事訴訟法の争点(新版)』
(有斐閣) 60-63 頁
- 「余罪取調べ」『総合研究 = 被疑者取調べ』(日本評論社) 507-539 頁
- 「ながら族の学童保育論」青年法律家 249 号 4-5 頁
- 1992 年 「演習 刑事訴訟法」法学教室 136 号 90 頁
- 座談会「当番弁護士で何が変わるか」法学セミナー 446 号 32-53 頁
- 「もう一つの監獄法 101 回目の取調べ — SAY YES」法学セミナー
446 号 100-102 頁
- 「被告人による控訴取り下げの効力が争われた一事例」千葉大学法学論
集 7 卷 1 号 159-171 頁
- 「演習 刑事訴訟法」法学教室 140 号 114 頁
- 「演習 刑事訴訟法」法学教室 141 号 117 頁
- 「ワークショップ 控訴審」(加藤克佳と共同執筆) 刑法雑誌 32 卷 3 号
508-512 頁
- 「自白の信用性」(判例解説) 別冊ジュリスト『刑事訴訟法判例百選第 6
版』160-161 頁

- 1993年 「演習 刑事訴訟法」法学教室 148号 124頁
「共同研究の目的 — 刑事判例の機能について」刑法雑誌 33巻 1号
58-61頁
「演習 刑事訴訟法」法学教室 152号 158頁
「演習 刑事訴訟法」法学教室 156号 129頁
「裁判を見に行こう — 裁判傍聴運動の目指すもの」市民のための司法
改革 司法改革推進本部ニュース No. 1、6-7頁
「抑止効果は死刑を正当化するか？」法学セミナー 466号〈特別企画〉
死刑廃止を考える 死刑廃止を求める刑事法研究者意見集 42頁
- 1994年 「演習 刑事訴訟法」法学教室 160号 156頁
「当番弁護士をめぐる法律問題」第一東京弁護士会会報 250号 32-42頁
「当番弁護士をめぐる法律問題」内藤謙先生古稀祝賀『刑事法学の現代
的状况』(有斐閣) 407-429頁
- 1995年 「 sacramentで会った公設弁護人たち」季刊刑事弁護 1号 69-73頁
「世界の刑事法律扶助 — その理念と現状 アメリカ」季刊刑事弁護 2
号 30-35頁
「黙秘権の確立をめざす弁護活動」(神山啓史と共同執筆) 季刊刑事弁
護 2号 126-131頁
「The Right to Counsel and Roles of Attorneys in Japan」千葉大学法
学論集 9巻 4号 191-206頁
「弁護通訳の実践例 — 千葉県の場合」(劉東尼と分担執筆) 季刊刑事
弁護 4号 67-69頁
「職権による移監命令」(判例解説) 法学教室 182号 90-91頁
- 1996年 座談会「当番弁護士制度の五年 — その成果と展望」季刊刑事弁護 5
号 28-54頁
「被疑者の弁護人依頼権と『弁護人となろうとする者』の意義」季刊刑
事弁護 5号 96-99頁
「アメリカの公設弁護人」法と民主主義 305号 24-28頁
「図書館利用者の秘密と犯罪捜査」現代の図書館 34巻 1号 40-57頁

- 「アクションプログラムを読んで」自由と正義 47 巻 6 号 162-164 頁
- 「国選弁護事件の割当方法について」季刊刑事弁護 6 号 40-43 頁
- 書評 下村幸雄『共犯者の自白』法と民主主義 314 号 54 頁
- 1997 年 「国選弁護人への給付体系の合理化について」寺木嘉弘判事退官記念文集『不撓』56-61 頁
- 「被疑者法律扶助のための一案」法律扶助だより 55 号 9-11 頁
- 「疑わしきは被告人の利益にということ」一橋論叢 117 巻 4 号 573-591 頁
- 「鼎談 刑事訴訟法の学び方・教え方」法学教室 197 号 11-24 頁
- 「証言心理学と刑事弁護の新しい関係のために」季刊刑事弁護 11 号 32 頁
- 「捜査法理論の一つの方法」法律時報 69 巻 9 号 13-17 頁
- “Introduction to the International Conference on Criminal Defense and Legal Aid 1997” Hitotsubashi Journal of Law & Politics Vol. 26, 1
- 「刑事弁護と法律扶助に関する国際研究集会」季刊刑事弁護 12 号 17 頁
- 1998 年 「控訴審へのはじめの一步」季刊刑事弁護 13 号 34-38 頁
- 「通信・会話の盗聴」刑法雑誌 37 巻 2 号 176-187 頁
- 「予備的訴因と訴訟条件」『松尾浩也先生古稀祝賀論文集下巻』（有斐閣）349-374 頁
- 「刑事免責による証言強制——ロッキード事件」（判例解説）別冊ジュリスト『刑事訴訟法判例百選第 7 版』148-149 頁
- 「刑事弁護における依頼者と弁護士」大塚喜一弁護士在職 30 周年祝賀記念論文集『日本の刑事裁判——21 世紀への展望』（現代人文社）116-138 頁
- 「刑事弁護充実の方策」『21 世紀司法への提言』（日本評論社）187-201 頁
- 1999 年 座談会「刑事訴訟法の現実とその問題点」ジュリスト 1148 号 124-164 頁
- 「刑事司法改革の方向」月刊司法改革 1 号 35-39 頁

「証拠開示実践例 証人尋問に際しての員面・検面の開示(1)」(笠井治と分担執筆) 季刊刑事弁護 19号 50-55頁

2000年 「ワークショップ 審判対象論」(中川孝博と共同執筆) 刑法雑誌 39巻 3号 510-515頁

「公費による被疑者弁護の制度化を」世界 2000年3月号 109-113頁

「刑事弁護人の役割と存在意義」季刊刑事弁護 22号 16-22頁

「当番弁護士100人へのアンケート結果から」季刊刑事弁護 22号 34-38頁

「法科大学院教育と実務修習」月刊司法改革臨時増刊『法科大学院の基本設計』94-97頁

「刑事弁護人の役割」『現代法律実務の諸問題平成11年版』(第一法規) 647-666頁

「予備的訴因と訴訟条件・再論」梶田英雄判事・守屋克彦判事退官記念論文集『刑事・少年司法の再生』(現代人文社) 275-292頁

「法科大学院と教員の課題」受験新報 2000年12月号 5頁

2001年 「一目でわかる証人尋問の特例のしくみ」季刊刑事弁護 25号 37-39頁

「司法改革は“素人”重視で」読売新聞 2001年3月9日「論点」

パネルディスカッション「日本の裁判官・検察官の存在意義を問う」季刊刑事弁護 26号 148-165頁

「なぜ『民訴と刑訴の対話』なのか——特集のねらい」(山本和彦と共同執筆) 法学セミナー 559号 28-29頁

対談「比較のなかの民訴と刑訴」(山本和彦と共同執筆) 法学セミナー 559号 46-54頁

「強制処分法定主義と令状主義」法学教室 245号 10-14頁

「逮捕直後の初回の接見申出に対する接見指定」(判例解説) ジュリスト 1202号平成12年度重要判例解説 178-179頁

「特集 法と心理学の可能性——趣旨説明」法と心理 1巻1号 8-9頁

鼎談「論争・刑事訴訟法(3) 弁護人の役割」法学セミナー 563号 87-91頁

- 鼎談「論争・刑事訴訟法(4) 訴訟的眞実とは」法学セミナー 564号 91-96頁
- 「私が新人弁護士だった頃◎弁護人になったつもりで」季刊刑事弁護 28号 35-36頁
- インタビュー「弁護士の積極性を」日弁連ニュース 335号 4頁
- 2002年 「一橋大学とロー・スクール(法科大学院)構想」受験新報 2002年4月4号 30-31頁
- 「公的刑事弁護制度」ジュリスト増刊『刑事訴訟法の争点〔3版〕』(有斐閣) 32-33頁
- 「第五一回 三商大学生研究討論会・刑事訴訟法(神戸大・大阪市大・一橋大) 法学教室 258号 118-119頁
- 「弁護士依頼権と自己決定」刑法雑誌 41巻3号 390-400頁
- 「公的弁護制度検討会のチェック第1回」カウサ1号 104-105頁
- 「公的弁護制度検討会のチェック第2回」カウサ2号 104-105頁
- 「公的弁護制度検討会のチェック第3回」カウサ3号 146-147頁
- 鼎談「刑事司法制度改革の現状と展望」現代刑事法 43号 5-32頁
- 「特集 市民と法律家のコミュニケーション——趣旨説明」法と心理 2巻1号 10-11頁
- インタビュー 法科大学院について 読売新聞 2002年12月15日
- 2003年 「中国政法大学の刑事証拠法草案」季刊刑事弁護 33号 136-137頁
- 「上訴制度のあり方」季刊刑事弁護 33号〈特集〉刑事司法改革の論点と行方; 裁判員制度・刑事手続 34-38頁
- 鼎談「論争・刑事訴訟法(15) 接見交通権と取調べ」法学セミナー 578号 95-102頁
- 鼎談「論争・刑事訴訟法(16) 接見交通権と取調べ」法学セミナー 579号 86-94頁
- 「ヨーロー郡公設弁護人事務所」月刊司法改革 6号 68頁
- 「公的弁護制度検討会のチェック第4回」カウサ5号 107-108頁
- 「“お客さん”化せぬ工夫」2003年6月2日毎日新聞〈裁判員制度根付

(216) 一橋法学 第15巻 第2号 2016年7月

くか)

インタビュー「どうなる、ロースクール? 一橋大学・後藤昭先生に
きく」アーティクル207号39-49頁

「目撃供述聴取の時間と場所」(原聰と分担執筆)季刊刑事弁護34号
132-135頁

「法科大学院に注目を」(杉浦保友と共同執筆)如水会報880号23-26
頁

「差押えに対する不服申立て手段の体系」『田宮裕先生追悼論集下巻』
(信山社)263-286頁

「裁判員制度に伴う上訴の構想」一橋法学2巻1号2-30頁

「通信傍受法以前の検証令状による電話傍受の適法性」(判例評釈)ジ
ュリスト1256号195-198頁

2004年 「刑事訴訟における学説と実務」法学教室280号(2004年)21-25頁

「裁判に関わる心理学者のための倫理規範の提案」(徳永光と共同執筆)
法と心理3巻1号54-67頁

「共同研究の目的と討論の概要——裁判員制度導入に伴う手続の構想」
刑法雑誌43巻3号421-425頁

インタビュー「裁判員制度どう見るか」2004年3月2日読売新聞 論
陣 論客

インタビュー「裁判員法案に言いたい」2004年5月17日毎日新聞

「全国法科大学院めぐり——刑事法教育の特色——(4)一橋大学大学
院法学研究科法務専攻」現代刑事法64号109頁

「現実からの出発」季刊刑事弁護39号〈特集〉刑事弁護の中の取引
20-21頁

座談会「刑事弁護に『取引』はあるか」季刊刑事弁護39号22-35頁

「刑事司法改革の到達点と展望」法律時報76巻10号25-29頁

座談会「被疑者刑事弁護の進展は刑事手続に何をもたらしたのか」季
刊刑事弁護40号57-71頁

「平野刑訴理論の今日的意義」ジュリスト1281号58-64頁

- 座談会「法科大学院における入学者の実態と入学者選抜の現状」『2005年法科大学院統一適性試験ガイドブック』（商事法務）1-36頁
- 2005年 座談会「公判前整理手続・連日的開廷で刑事弁護はどう変わるか」季刊刑事弁護 41号 31-57頁
- 「訴因の特定・明示」（判例解説）別冊ジュリスト『刑事訴訟法判例百選第8版』100-101頁
- 「録音・録画利用の明示を」2005年4月5日朝日新聞朝刊〈刑事裁判、新生へ課題〉
- 「ワークショップ 裁判員制度と報道の役割」（笹倉香奈と共同執筆）刑法雑誌 44巻2号 265-268頁
- インタビュー「法科大学院探訪（18）一橋大学法科大学院——構想力ある専門人を育成する 後藤昭教授・高橋滋教授・松本恒雄教授に聞く」法学セミナー 609号 1-4頁
- 2006年 座談会「公判前整理手続で刑事弁護は変わったか」季刊刑事弁護 48号 22-38頁
- 座談会「ロースクール教育の到達点」ロースクール研究 1号 8-25頁
- 「参議院法務委員会参考人意見陳述」第164回国会参議院法務委員会会議録 20号 2-4頁
- 「法科大学院——質高い授業生命線」2006年10月9日 日本経済新聞
- 「検証 新司法試験刑事系科目（2）〔刑事訴訟法〕」ロースクール研究 3号 69-76頁
- 「公判前整理手続をめぐる二つの検討課題」自由と正義 57巻9号 91-99頁
- 2007年 「法科大学院の現在」IDE 現代の高等教育 493号 10-15頁
- 「日本犯罪嫌疑人辯護制度的發展動向」（林裕順 訳）月旦法學雜誌 150期 178-185頁
- パネルディスカッション「公判前整理手続の実際（3）何が行われているのか、いかに対応すべきか（1）、（2）、（3）」NIBEN Frontier 286号 10-19頁、287号 38-45頁、288号 38-44頁

(218) 一橋法学 第15巻 第2号 2016年7月

インタビュー「刑事弁護活動とメディア」法と民主主義432号48-51頁

2008年「立志(22) 学生から見た裁判所の激動」法学セミナー637号巻頭1頁
「朝陽・烏雲——日本新式法曹養成制度的發展動向——」(林裕順 訳)
台湾本土法學雜誌103期212-218頁

座談会「法曹養成制度の現状と課題」法律時報80巻4号4-23頁

「一橋大学法科大学院の臨床法学教育」臨床法学セミナー3号25-28頁

パネルディスカッション「変わる刑事裁判——裁判員制度施行に向けて(第8回) 証拠開示の最前線」自由と正義59巻8号87-101頁

「シンポジウム 素人の事実認定と玄人の事実認定——企画の趣旨」法と心理7巻1号1頁

インタビュー「法科大学院探訪(50) 未修者教育の成功——一橋大学法科大学院 村岡啓一教授・後藤昭教授に聞く」法学セミナー641号8-10頁

座談会「裁判員制度によって刑法理論はどう変わるのか」季刊刑事弁護56号24-42頁

「司法試験合格者の増員」2008年8月10日毎日新聞 闕論

「法科大学院における答案指導のあり方」ロースクール研究9号25-31頁

「裁判員制度をめぐる対立は何を意味しているか」世界2008年6月号90-100頁

2009年「裁判員制度と弁護人への期待」『裁判員裁判における弁護活動——その思想と戦略』(日本評論社)1-11頁

「未決拘禁法の基本問題」『未決拘禁改革の課題と展望』(日本評論社)1-16頁

「法科大学院を崩壊させないために」法学セミナー609号6-7頁

「助走距離とバーの高さは合っているか?——日本の司法試験制度」

Ilkam Law Review Vol. 15, Feb. 2009, 503-515

「公判前整理手続における証拠開示命令の対象」(判例解説)ジュリス

- ト 1376 号平成 20 年度重要判例解説 211-213 頁
- 座談会「裁判員裁判に向けて裁判官はどう変わってきたか」季刊刑事
 弁護 59 号 47-73 頁
- 「法科大学院の着実な発展のために何が必要か」ロースクール研究 13
 号 5-7 頁
- 「司法試験合格率の読み方」『大学ランキング 2010 年版』（朝日新聞出
 版）196-198 頁
- インタビュー「裁判員制度の疑問を読み解く」本の窓 289 号 10-15 頁
- 「刑事裁判が変わる」Hitotsubashi Quarterly 23 号 26-27 頁
- 「裁判員裁判と判決書、控訴審のあり方——司法研究報告書を素材とし
 て——」刑事法ジャーナル 19 号 25-31 頁
- 「裁判員になる子どもたちに何を教えるか」法と心理 8 巻 1 号 104-106
 頁
- パネルディスカッション「裁判員裁判における弁護活動」『現代法律実
 務の諸問題平成 20 年度研修版』（第一法規）577-632 頁
- 「刑事系科目（2）〔刑事訴訟法〕」ロースクール研究 14 号〈特集〉検証
 第 4 回新司法試験 60-68 頁
- 「動き始めた裁判員裁判」法学セミナー 660 号 6-9 頁
- 座談会「裁判員裁判の経験と課題」法学セミナー 660 号 10-19 頁
- 2010 年 「法科大学院がなすべきことと新司法試験への提案」ロースクール研究
 15 号 30-36 頁
- 「国民参与裁判で行われた第 1 審判決に対する控訴審の判断基準」（関
 永盛と共同執筆）刑事法ジャーナル 24 号 33-40 頁
- 「日本裁判員裁判制度之論争」（肖萍 訳）京師刑事訴訟法論叢第 1 巻
 379-390 頁
- 「刑事系科目（2）〔刑事訴訟法〕」ロースクール研究 16 号〈特集〉検証
 第 5 回新司法試験 65-72 頁
- 2011 年 「法と心理学の 10 年」法と心理 10 巻 1 号 1-2 頁
- 「法と心理学会 10 周年記念シンポジウム コメント」法と心理 10 巻 1

(220) 一橋法学 第15巻 第2号 2016年7月

号 16-17 頁

「法科大学院制度は失敗したのか」法律時報 83 巻 4 号 34-38 頁

「おとり捜査」(判例解説)別冊ジュリスト『刑事訴訟法判例百選第9版』26-27 頁

「訴因の記載方法からみた共謀共同正犯論」村井敏邦先生古稀祝賀論文集『人權の刑事法学』(日本評論社)453-478 頁

「裁判員裁判の無罪判決と検察官控訴」季刊刑事弁護 68 号 16-23 頁

2012 年 「公判前整理手続と公判審理の関係」刑法雑誌 51 巻 3 号 341-350 頁

「公判前整理手続」法学教室 376 号 22-26 頁

「供述の証明力を争うための証拠」『三井誠先生古稀祝賀論文集』(有斐閣)659-682 頁

インタビュー「法曹人口抑制論に対して法科大学院はこう考える」The Lawyers 2012 年 4 月号 13-15 頁

「裁判員制度在刑事司法中的功能——裁判員為刑事審判帶來什麼」(洪維德 訳)全國律師 Taiwan Bar Journal Vol. 16 No. 4, 72-82 頁

「5 年目を迎えた臨床法学教育学会」法曹養成と臨床教育 5 号 1-4 頁

「法律相談によるライブクリニック型臨床法学教育の試行プロジェクト」一橋大学大学教育研究開発センター全学 FD シンポジウム報告書 14-23 頁

2013 年 「接見指定権の原理的問題」福井厚先生古稀祝賀論文集『改革期の刑事法理論』(法律文化社)138-152 頁

「裁判員制度事実認定争議之上訴救済」(林裕順 = 李怡修 訳)月旦法学 222 期 161-171 頁

「刑訴法 382 条にいう事実誤認とその判示方法」(判例解説)ジュリスト 1453 号平成 24 年度重要判例解説 187-189 頁

「弁護人の存在意義」『実務体系現代の刑事弁護 1 弁護人の役割』(第一法規)3-12 頁

「厳格な証明と自由な証明」『実務体系現代の刑事弁護 2 刑事弁護の現代的課題』(第一法規)255-267 頁

- 「法科大学院」『シリーズ大学 5 教育する大学』（岩波書店）85-102 頁
 “Citizen participation in criminal trials in Japan” International Journal of Law, Crime and Justice 2013, 1-13.
- 「被疑者・被告人の法的地位」ジュリスト増刊『刑事訴訟法の争点（新・法律学の争点シリーズ 6）』（有斐閣）42-43 頁
- 2014 年 「法曹倫理教育の現状と継続的法曹倫理教育の可能性」法と実務 10 号 157-164 頁
- 「法科大学院と刑事訴訟法学」一橋法学 13 巻 2 号 495-523 頁
- 座談会「法曹養成制度の再構築に向けて」法の支配 174 号 140-170 頁
- 「刑事司法の 10 年後を展望する」青山法務研究論集 9 号 51-66 頁
- 「日本の法曹教育の近未来」法学セミナー 720 号 32-35 頁
- 「法曹養成改革と現在の課題」法律時報 86 巻 9 号 5-10 頁
- 「刑事弁護の将来」『実務体系現代の刑事弁護 3 刑事弁護の歴史と展望』（第一法規）405-414 頁
- 「法科大学院の 10 年とこれからの課題」法曹養成と臨床教育 7 号 26-32 頁
- 2015 年 「法科大学院における検察官倫理の教育方法」法律時報 87 巻 1 号 86-92 頁
- 座談会「法制審・刑事司法制度特別部会の結論を受けて」弁政連ニュース 39 号
- 「法曹養成制度改革の評価」ビジネス・ロー・ジャーナル 88 号 13 頁
- 「司法試験はこれでよいのか？」The Lawyers 2015 年 6 月号 43-49 頁
- 「裁判員裁判と控訴審の役割」刑法雑誌 54 巻 3 号 358-373 頁
- 「法科大学院評価基準の改定について」JLF NEWS No. 61, 13-14 頁
- 2016 年 「刑訴法等改正案の全体像」法律時報 88 巻 1 号 4-7 頁
- 江田五月氏インタビュー「刑訴法改正に思う」法律時報 88 巻 1 号 8-11 頁
- 「刑訴法改正と取調べの録音・録画制度」法律時報 88 巻 1 号 12-17 頁
- 「2015 年刑訴改正法案における協議・合意制度」総合法律支援論叢 8 号

(222) 一橋法学 第15巻 第2号 2016年7月

1-20頁

「弁護人接見の際の容貌撮影行為の法的性格」青山法務研究論集11号
23-30頁

「裁量保釈の判断に対する抗告審の審査方法」(判例解説)ジュリスト
1492号平成27年度重要判例解説171-173頁

V 翻訳

1984年 ルイス・ナタリ「公設弁護人を支えるもの——アメリカの経験」季刊
刑事弁護3号188-192頁

2000年 バリー・メルトン「アンケート こんなとき、あなたならどうします
か? 弁護人に聞くそれぞれの役割観 海外編 アメリカ合衆国(カリ
フォルニア州)」季刊刑事弁護22号77-78頁

2004年 T.アンドリュース「新千年紀における法曹の課題」(監訳)一橋法学3
巻1号1-52頁